

Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信

No.40(通巻 44号)

平成22年10月6日発行

【目次】

- こんなのきました ー参考調査課によせられたレファレンスー 【43】…………… 1
「馬鹿は風邪をひかない」について
- こんなのあります ーいちおしレファレンス・ブッケー 【30】…………… 2
地域版文学事典のこだわり
- 市町村のみなさんからの発信 【29】…………… 3
「心がけること」 江別市情報図書館 小林絵美さん
- Librarian's Box(しよぼこ) 【25】…………… 4
～ 所蔵(館)調査 ～
- 課員のつばやき ー日々の業務からの短信ー 【27】…………… 5
「ゲゲゲの女房」と同時代の雑誌資料調査
- レファレンスサービスに関する雑誌記事紹介(2010年7月～9月分)…………… 6
- News…………… 7
 - 1 速報! 「法コンシェルジュ養成講座」が札幌市で開催されます
 - 2 市町村図書館職員レファレンス体験研修実施中
 - 3 書庫ツアー開催(8/4)
 - 4 「国立国会図書館サーチ」開発版を公開(8/17)
 - 5 「健康・医療情報シンポジウム2010 in 北海道」開催(9/23)
- 編集後記…………… 8



北海道立図書館

こんなのきました —参考調査課によせられたレファレンス— 【43】

「馬鹿は風邪をひかない」について

「馬鹿は風邪をひかない」という言い回しの出所が、どこから来ているのか知りたいという質問が図書館を通じて来ました。

既に国語辞典やことわざ辞典には当たったが見つからなかったということでしたが、「馬鹿は風邪をひかない」とはよく聞くことばだと思い、こちらでも「馬鹿は風邪をひかない」や「馬鹿」のキーワードで国語辞典やことわざ辞典を調査しましたが、やはり見つかりません。そこで、キーワードを「風邪」に変えて見てみると、『故事・俗信ことわざ大辞典』（尚学図書編集 小学館 1982.2 請求記号：813.4/K0）にある巻末索引の「風邪」の項に「阿呆は風邪を引かぬ」ということばが見つかり、「阿呆は風邪を引かぬ」は「馬鹿は風邪をひかない」と同じ意味ではないかと辞典類に当たり直してみるとにしました。

『故事・俗信ことわざ大辞典』では「阿呆は風邪を引かぬ」とは「愚か者は何も考えないでのおんびり生活するので、体をこわすことがないということ、〔信天翁風不引（あほうかせひかず）〕〔譬喩尽六〕」とあり、出典が「譬喩尽」（たとえづくし）であることがわかりました。『日本国語大辞典 第1巻』（小学館国語辞典編集部編集 小学館 2000.12 請求記号：813.1/NI/1）も見てみましたが、同様なことが書かれていました。

譬喩尽とは『日本国語大辞典 第8巻』によれば、「江戸後期の諺語辞典。全8巻。松葉軒東井編。天明6年（1786）序。寛政11年（1799）頃まで増補。ことわざを中心に詩歌・童謡・流行語・方言などの類に至るまで広く集め、いろは順に配列したもの。」とあります。

当館では譬喩尽是『たとへづくし』（松葉軒東井[編] 宗政五十緒[校訂] 同朋舎出版 1981.1 請求記号：813.4/SH）と『たとへづくし 解説・索引』（松葉軒東井[編] 宗政五十緒[校訂] 同朋舎 1979.11 請求記号：813.4/SH/2）の2冊があります。「解説・索引」から本文にあたり、「信天翁風不引」の原典を見つけることができました。

また、ウィキペディアの「阿呆」の項に紹介されていた『近世上方語辞典』（前田勇編 東京堂 1964 請求記号：818/MA）を調べると、愚かな者は心配事がないから強健である。天保・顔づくし落しばなし、「俗に愚物（あほう）は風をひかぬと申す事でござれば、先生は才子ゆゑ風をお引きなさるてや」とあり、出典が「顔づくし落しばなし」であることがわかりました。この『近世上方語辞典』より一年後に刊行された『上方語源辞典』（前田勇編 東京堂出版 1965 請求記号：818/MA）では、「阿呆は風邪引かぬ《諺》阿呆には心配事がないから概して強健である。〔語源〕天保頃に用法がある。」とありました。

顔尽し落断（かおづくしおとしばなし）とは『国書総目録 第2巻』（訂正版 岩波書店 1990.5 請求記号：026/K0/2）によれば、「1冊 別称：絵本顔尽 分類：咄本 晁鐘成作 浦川一船画」とあります。

余談ですが、出所は載っていませんでしたが、『罵詈雑言辞典』（奥山益朗編 東京堂出版 1996.6 請求記号：813.1/B）にまで「阿呆は風邪を引かない」と載っているのにはびっくりしました。

「阿呆は風邪を引かぬ」と「馬鹿は風邪をひかない」が同じ意味だということは、『暮らしの健康ことわざ辞典』（西谷裕子編 東京堂出版 2009.9 請求記号：388.8/KU）に「阿呆は風邪をひかぬ」は「馬鹿は風邪引かぬ」ともいうとあり、インターネット情報でも、個人のHP「馬鹿の手帳 ことわざ・格言・俗言をいろどる馬鹿①」に「阿呆は風邪をひかぬ」は現在では、「馬鹿は風邪をひかない」のほうが一般的とあるのをよりどころとしました。

(<http://bakanote.blog70.fc2.com/blog-category-2.html>)

以上の資料を紹介して回答としました。今回は『故事・俗信ことわざ大辞典』の巻末索引、二次的資料に大変助けられた事例でした。回答した当日に、図書館を通じて質問者の方から大変参考になったとお礼のことばをいただきました。

こんなのあります —いちおしレファレンス・ブッカー 【30】

地域版文学事典のこだわり

物語の作者や背景、掲載された文芸誌、旬誌はどのようなものか等々、当館にも文学に関する質問が数多く寄せられます。こうしたレファレンスに欠かせないのが文学事典。思いつくだけでも『日本近代文学大事典』、『日本古典文学大辞典』といった大部のものから(共に全6巻)、『新潮日本文学辞典』『集英社世界文学事典』といったハンディな一冊ものまで、さまざまな事典を利用して日々回答しています。

今回は、先ごろ(といっても3月発行ですが)新しく棚に加わった『福岡県文学事典』にちなんで、地域名を冠した文学事典を集めてみました。

福岡県文学事典 志村有弘編 勉誠出版 2010.3 (R910.33/F)

「歴史・伝説」「同人誌・文芸誌」「福岡の作家」の3部から構成されています。「芥川・直木賞と福岡県」、「シンガーソングライター、その個の世界と土着性 —1970年代の財津和夫、武田鉄也、井上陽水—」、「八幡製鉄と文学」など地域や風土の観点からさまざまな作家が論じられているもの興味深く読むことが出来ます。作家編では近現代の作家をはじめ、菅原道真から赤川次郎、夢野久作、萩尾望都まで、多彩な300余名の作家、文人を収録しています。

大阪近代文学事典 日本近代文学会関西支部編 大阪 和泉書院 2005 (R910.26/O)

織田作之助、折口信夫、関高健、川端康成、小松左京、筒井康孝、藤本義一、与謝野晶子(鉄幹の項はない)等々、大阪に関わった小説家、劇作家、評論家、詩人、歌人、俳人900余名が採録されています。中には大阪を題材にした作品を著した域外作者も含まれており、さらに紹介作品も代表作ではなく大阪を題材にした作品を取り上げるなど、「大阪」へのこだわりが伺える内容となっています。和泉事典シリーズの1冊。

東京記録文学事典 明治元年▷昭和二〇年 槌田満文編 柏書房 1994 (R910.26/TO)

懐かしい写真で地域の過去を振り返る。そんな写真集が数多く発行されています。

本書は、ノンフィクション小説の記述の紹介を通して、日々変わりゆく東京の情景を編年で浮かび上がらせることを意図した編年体の事典。その年の「全般的事項」「東京関連の事項」「文化・教育・芸術に関連する事項」に続いて、ノンフィクション作品が紹介されます。作家の目線や先行きに対する不安感など、時として時代の空気感までが活写されているために、その年の時代背景がより生々しくよみがえります。収録は、明治元年から昭和20年まで。巻末索引あり。

鎌倉の文学 小事典 伊藤玄二郎編 鎌倉 かまくら春秋社 2005 (910.2/KA)

三木卓・立原幹・藤沢周のエッセイ他、鎌倉とその周辺の地域は数多くの作家に愛されてきました。本書は、鎌倉を舞台にした文学作品と風景を紹介するカラーガイドブック。後半が「小事典」。「鎌倉ゆかりの作家・プロフィール」「鎌倉文学年表」。五十音順で140名を収録していますが、索引がないので読み物として楽しむ1冊でしょうか。

北方資料室で所蔵しています『北海道文学大事典』(北海道文学館編 北海道新聞社 1985)は本道文学の代表的な事典ですが、本稿では割愛させていただきます。

市町村のみなさんからの発信 【29】

「心がけること」

江別市情報図書館 小林 絵美さん

学生の頃まではどうしても同世代と接することが多く、会話の中で言葉の違いを感じることは無かったのですが、こうして社会に出てみると驚かされることは多いです。特に公共図書館は多くの世代の方々が利用する施設であり、私たちは日々そんな方たちとコミュニケーションをとることが求められています。またレファレンスを受ける際、インタビューでの言葉や文字のやり取りは必要不可欠です。そんな時、単語一つで意志の疎通がうまくいかない、回答まで遠回り…これは絶対に避けたいことです。

話は2年前に遡ります。先輩が「これ、おもしろいよ。」と、ある本を読んでくれました。それは、【年輩の方との会話中、相手が使った言葉を言い直すこと（例：「とっくり」→「タートルネック」）を諫める】内容で、「シキフも例に挙げられているの。めずらしいよね。」と言われた時、シキフ??と思ったのです。24歳だった私には耳慣れない言葉で、頭の中での漢字変換も「式譜?」「四季…?」と、うまくいかず、つい「シキフって何ですか?どのような漢字でしょう?」と聞いてしまいました。すると先輩は「聞いたこと無い?【敷く】【布】で敷布だよ」と教えてくれました。言われてみれば!と、当時の私は大いに納得し、「つまり敷物のことですね!レジャーシートかぁ、勉強になりました」と返したのです…。ええ、その後先輩は一瞬沈黙しました。そして「敷布ってシーツのことだよ」と優しく言いました。今思い返しても、自ら穴を掘って入りたくなくなってしまいう程恥ずかしい出来事です。

ですが、この経験から私は一つのことを学びました。それまで自分が使う言葉と、目上の方の使う言葉には、それ程違いがないと思っていたのですが、案外隔たりがあると気付かされたのです。そこで、「これからはより一層気をつけて、自分が使わない言葉を言われても、絶対に言い換ええない!」と心に強く誓ったのでした。

さて、それから数日後レファレンスルームで、高校2年生の男の子から「キング牧師について調べています。」と相談されました。レポート用とのことでしたので、「伝記をお持ちしてよろしいですか?」と尋ねました。しかし彼は黙り込み、フィッと視線を上に向けてしまいました。伝記じゃだめ?と思ったのですが、彼の視線の先に蛍光灯があることに気が付き…もしや?と、ある考えに到りました。まさかとは思いつつ、おそろおそろ「伝記というのは、伝言の伝に記録の記と書きまして、ある人物の記録や伝承されたことが書かれたものことです」と説明すると、あっさり「じゃあ、デンキ（発音：電気）で!」と返答が。やっぱり伝記の意味が分からなかったのかぁ…と思いつつ、数冊提供すると彼はすぐにページをめくり「ああ!デンキって、ヒストリー的な本のことか!こういう本を借りたかったんです。なんだ…」と非常に納得している様子。かたや私は、ヒストリー的?!と、その表現に衝撃を受け、「そうですね…人物の生涯というか、歴史を記しているのが伝記です」と返し、本を貸出しました。

この一連のできごとは、目上の方・年下の方共に、会話するときには留意が必要なのだ、と心に留める契機となりました。ささやかですが大切なことで、基本的なことなのに実行しようとするとは意外と難しいことです。

さて、お気付きの方もいらっしゃるかと思いますが、あれほど「しない」と誓った「言い換え」を、高校生の彼に私は早速してしまっているのです。「ヒストリー」を「歴史」と。後々そのことに気が付きちょっと落ち込んで、全てのお客さまに分かりやすい言葉遣いをしたいものだ、とあらためて今は思っているのです。

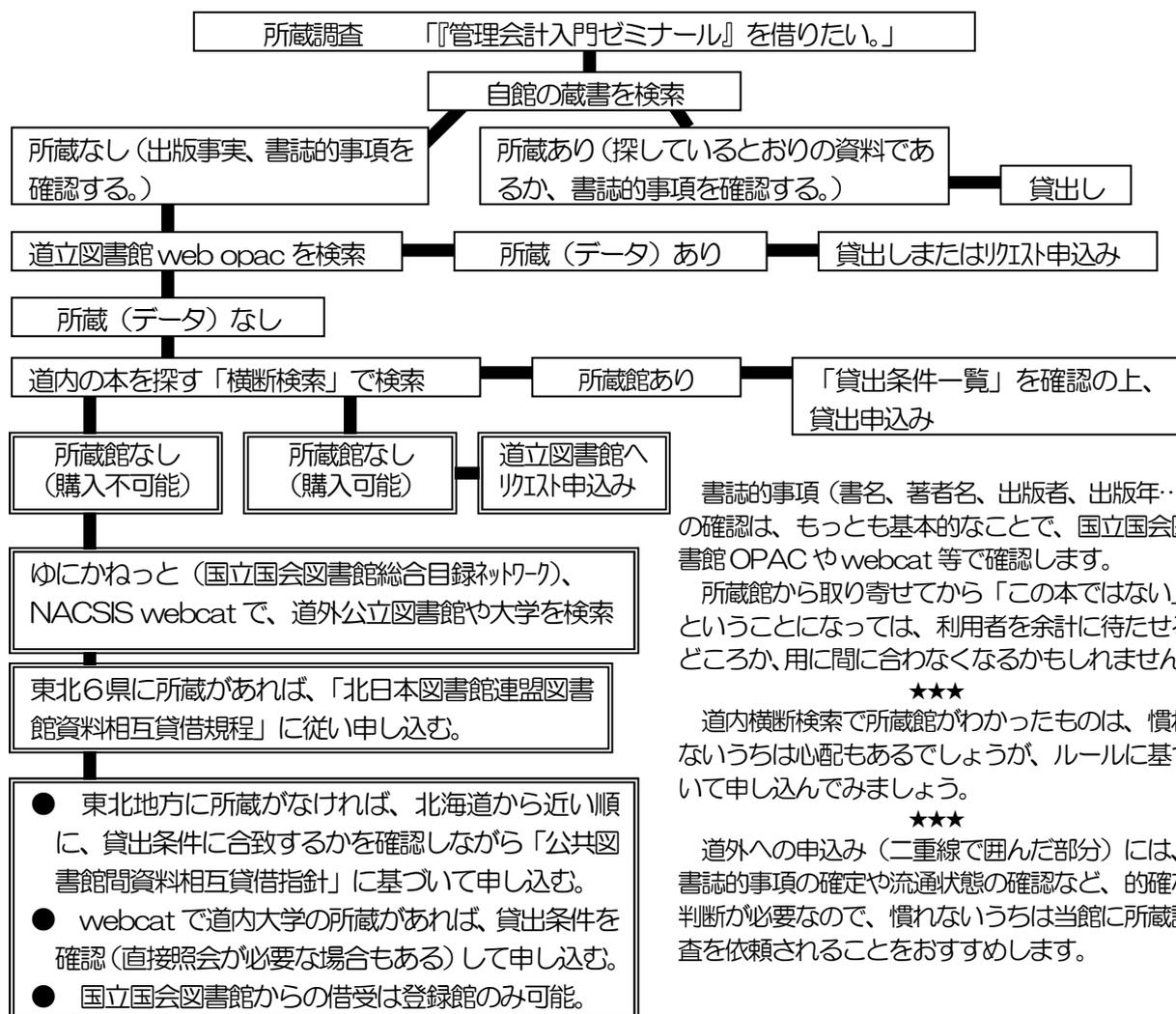
Librarian's Box (ししょぼこ) 【25】

～ 所蔵（館）調査 ～

「市町村図書館職員レファレンス体験研修」は、図書館（室）がレファレンスサービスやスキルについて抱えている課題に応じてプログラムを組む「オンデマンド」研修です。電話やメールなどで打ち合わせをしてプログラムを決定していきますが、大抵の場合、研修の冒頭に「参考調査課の業務の流れ」というコマを入れて、レファレンスサービスの定義やタイプ分けから、所蔵（館）調査、事項調査の手順までの「流れ」を説明することにしています。

たくさんの方に本研修を受講いただいている一方で、新任職員研修等も含めて受講の機会をもてない方もいらっしゃると思います。そこで、本欄では、所蔵（館）調査の流れについて説明します。

所蔵（館）調査は定型的な手順だけで行うものではなく、事例毎に探索方針を考えて進めていきますが、基本として押さえる手順は、Web での蔵書検索が定着した現在、当館においても市町村図書館（室）においても違いはないと考えますので、業務の参考にさせていただければと思います。



書誌的事項（書名、著者名、出版者、出版年…）の確認は、もっとも基本的なことで、国立国会図書館 OPAC や webcat 等で確認します。

所蔵館から取り寄せてから「この本ではない」ということになっては、利用者を余計に待たせるどころか、用に間に合わなくなるかもしれません。

★★★

道内横断検索で所蔵館がわかったものは、慣れないうちは心配もあるでしょうが、ルールに基づいて申し込んでみましょう。

★★★

道外への申込み（二重線で囲んだ部分）には、書誌的事項の確定や流通状態の確認など、的確な判断が必要なので、慣れないうちは当館に所蔵調査を依頼されることをおすすめします。

<相互貸借業務に参照していただきたい規程など>すべて当館 HP 「図書館ポータル」でご覧になれます。

北海道図書館振興協議会相互貸借規程	北日本図書館連盟図書館資料相互貸借規程	公共図書館間資料相互貸借指針
北海道立図書館協力ハンドブック	道内図書館貸出条件	相互貸借の基本原則（北道振）

★レファレンス業務でわからないこと、悩むことなどありましたら、何でもご相談ください。★

課員のつぶやき 一日々の業務からの短信―【27】

「ゲゲゲの女房」と同時代の雑誌資料調査

今年から個人向けのメールレファレンスを開始したこともあり、最近では道外の利用者からの調査依頼も多くなってきています。中でも問い合わせの多いのが、当館が所蔵する栗田書店寄贈の雑誌資料の掲載内容に関する調査です。

栗田書店寄贈の資料とは、当館が1963、1965年に、出版取次会社である栗田書店（現・栗田出版販売株式会社）から、栗田ブックセンター（栗田書店が1952年に設立した、出版文化向上のために国内の出版物全てを集めた展示場）の図書・雑誌、約13万冊の寄贈を受けたものです。この大量の寄贈は、当館が1967年に現在の場所へ移転するきっかけにもなりました。この寄贈の後も、継続して雑誌の見本誌等の寄贈をいただいています。

栗田書店寄贈資料には、当時の公共図書館ではあまり収集していない大衆向け出版資料が数多くあり、戦後日本の大衆文化を知る上でも貴重なものとなっています。全国的に見ても所蔵している図書館は珍しいため、道外の研究者からも調査申込みが寄せられています。

調査の対象は『小説倶楽部』や『読切小説集』といった大衆小説誌もありますが、漫画雑誌の掲載内容に関する調査も多数あります。

これらの栗田書店寄贈の雑誌や漫画を含む資料は、閉架書庫に保管し、館内においてのみ利用いただいています。

2010年3月～9月にかけて、NHKで放送された連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」は、漫画家・水木しげる夫妻を中心に、貸本漫画から週刊漫画雑誌にかけての時代を主に描いています。栗田書店寄贈資料はまさにそうした時代の大衆文化を知るのに最適なコレクションです。

今回は、栗田書店寄贈資料の中から、「ゲゲゲの女房」にちなんで、水木しげるに関する貴重な資料をいくつかご紹介します。

①『お笑いチーム』（水木しげる著 兎月書房 1958.6）（資料番号：1105647190）

ドラマ内の「富田書房」のモデルである兎月書房から出版された、水木しげるの貸本漫画時代の1冊。いつもとは違う絵柄のギャグ漫画で、2009年には復刻版が出版されています。

②『ガロ』（青林堂）1966年3月号（第3巻3号 通巻19号）（資料番号：1206939777）

ドラマ内の雑誌「ゼタ」のモデルである『ガロ』。この号は「水木しげる児童漫画賞受賞記念特別号」として「鬼太郎の誕生」や、水木のアシスタントも務めた、つげ義春の「チーコ」を掲載しています。

③『少年マガジン』（講談社）1966年11月13日号（第8巻48号 通巻401号）（資料番号：1207401678）

ドラマ内の雑誌「少年ランド」のモデルである『少年マガジン』。この号はテレビドラマ「悪魔くん」のカラー特集とともに、漫画『悪魔くん』の百目の話を連載開始しています。



①『お笑いチーム』



②『ガロ』1966年3月号



③『少年マガジン』1966年11月13日号

レファレンス・サービスに関する雑誌記事紹介

(2010年7月～9月分)

※ 論題(記事名)、著者、雑誌名、出版者/編者 巻号、発行年月、掲載ページの順に記載
(参考: 国立国会図書館NDL-OPAC 雑誌記事索引。 MAGAZINE PLUS)

- 1 特集 夏休みには図書館で調べ学習! 『あうる』図書館の学校 95[2010.6・7] p.2-25
 - ・その1 「図書館へ来てね」その前に/松下欣美、林容子、山田万知代
 - ・その2 調べる途中の「困った!」Q&A/岡本真、小川俊彦、片岡則夫他
 - ・その3 人の意見と自分の考えー参考文献はなぜ書かないといけないの?/藤田節子
- 2 高田高史のレファレンスひろば(その17・最終回)「数字でうまく語呂あわせを作りたいのが参考になる資料はありますか。4649(よろしく)」ほか/高田高史 『あうる』図書館の学校 95[2010.6・7] p.44-47
- 3 チャートで考えるレファレンスツールの活用(ステップ29) チャート日本文学(2) 和歌、俳句を探す/大串夏身 『あうる』図書館の学校 95[2010.6・7] p.48-51
- 4 特集 ノンフィクション大研究 『こどもの図書館』児童図書館研究会 57(7) [2010.7] p.2-9
 - ・児童向けノンフィクション資料についてー自然科学の本を中心にー/尾崎尚子
 - ・子どもの「知りたい!」に応える雑誌 「月刊たくさんのふしぎ」と「月刊ポプラディア」/山形昌也、池田建
 - ・比較「知る知る! 違い!」
 - ・これならできる! 自由研究101のアイデアカードから選ぼう
- 5 レファレンス三題断(その171) 横手市立増田図書館の巻 地域の方々とともに成長する図書館を目指して/石田裕子 『図書館雑誌』日本図書館協会 104(7) [2010.7] p.448-449
- 6 霞が関だより(第83回)「図書館海援隊」参加図書館における口蹄疫に関する情報提供の開始について/文部科学省 『図書館雑誌』日本図書館協会 104(8) [2010.8] p.500-501
- 7 レファレンス三題断(その172) 和歌山県立医科大学図書館三葛館の巻 看護図書館のレファレンスー多様なニーズに応えたい/志茂淳子 『図書館雑誌』日本図書館協会 104(8) [2010.8] p.508-509
- 8 病院図書館司書が教える看護文献検索の技(5) 摂食の評価をしたいーAND検索とOR検索/山田有希子 『整形外科看護』メディカ出版 15(8)(通号182) [2010.8] p.826-828
- 9 地域資料・情報サービスの本格的な展開を(上) 公共図書館の中核的サービスに位置付けるために/戸室幸治 『みんなの図書館』教育史料出版会、図書館問題研究会 401[2010.9] p.30-46

NEWS

1 速報！「法コンシェルジュ養成講座」が札幌市で開催されます

ローライブラリアン研究会（代表：指宿信成城大学法学部教授）が募集した「法コンシェルジュ養成講座」（2010年度図書館振興財団助成事業）について、北海道での開催を目指し応募したところ、過日、同研究会から実施決定通知をいただきました。

同講座は、法情報の提供について、図書館員向けの研修プログラムの実施と講師派遣を行い、法律関係資料に「強い」図書館員＝「法コンシェルジュ」の育成を目指すものです。

開催にあたっては、札幌市中央図書館と当館が協働して受入体制を整えていきます。

開催期日は、平成23年1月の2日間を予定しています。詳細は決定次第お知らせします。

2 市町村図書館職員レファレンス体験研修実施中

受講者の希望に沿った形で行う「市町村図書館職員レファレンス体験研修」は、平成13年度の開始から今年9月までに157人が受講され、平成22年度は9月末現在、3館6名の方が受講しています。

今年は「健康・医療情報」についての受講希望があり、当館と連携協力している“北海道医療大学総合図書館”を訪問し、館内の見学や医療系のデータベース（医中誌 web 等）の話などを伺いました。

現在、数館から研修申込みを受けておりますが、まだまだ募集しております。受講を希望される際には、当課までご連絡ください。

なお、実施要項を、当館ホームページ「図書館ポータル」に保管しています。

3 書庫ツアー開催（8/4）

8月4日に今年度2回目となる書庫ツアーを開催しました。今回はツアー当日の北海道新聞に記事が掲載されたこともあり、参加人数が54名と、今までで一番の参加人数となりました。参加者は、普段入ることができない書庫などを1時間40分程度でまわりました。

次回は、11月3日に開催します。

4 「国立国会図書館サーチ」開発版を公開（8/17）

国立国会図書館では、8月17日から「国立国会図書館サーチ 開発版」を公開しました。

これは、国立国会図書館の蔵書検索のほか、都道府県立図書館、政令指定都市の市立図書館の蔵書、国立国会図書館デジタルアーカイブポータル（PORTA）が収録している各種のデジタル情報を探すことができます。

本格稼働は平成24年1月を予定しています。調査の際には活用してみたいはいかがでしょうか。

（HPアドレス：<http://iss.ndl.go.jp/>）

5 「健康・医療情報シンポジウム2010 in 北海道」開催（9/23）

9月23日に日本薬学図書館協議会主催「健康・医療情報シンポジウム2010 in 北海道」が札幌市中央図書館講堂において開催されました。

東京大学大学院薬学系研究科の澤田康文教授から「安心・安全な医薬品使用、一情報をどう捉え、どう活かすか？」、国立がん研究センターの渡邊青高氏から「知っておきたいがん情報」をテーマに講演がありました。

その後、『パネルディスカッション「一般市民への医療情報提供のあり方について」』が行われ、当課の吉原がパネリストとして参加し、「公共図書館の現況」について情報提供を行いました。

編集後記

- ◆ 公務、私的含め、ここ最近いろいろな図書館へ行く機会が多い。そこでつい見てしまうのが、参考図書コーナー。当館で所蔵していない資料があると手に取って、中身を見て、奥付を見る。つくづく司書であると感じてしまう瞬間です。(on)
- ◇ ちなみに、今回の「課員のつぶやき」で取り上げた漫画家・水木しげる氏は、日本国内の評価の他に、2007年1月のフランス・アングレーム国際漫画フェスティバルでは最優秀コミック賞を受賞しています。(『Do-Re』第31号 2007年3月発行 p.2「こんなのあります」より) (T)
- ◆ 今回、「こんなのきました」の事例では、質問がよく聞くことばだからと辞典類の何かにはすぐ見つかるのではないかと思い調査を始めましたが、まったく載っているものがなく、『故事・俗信ことわざ辞典』の巻末索引に大いに助けられました。また、出所が書かれているものを見つけても、聞いたこともなかった文献で、つくづく二次資料の重要性を感じました。(す)
- ◇ 8月で閉館した札幌東宝公楽劇場の最終作品は「ALWAYS 三丁目の夕日」と黒澤の「天国と地獄」の豪華二本立て。(シネコン世代に「二本立て」。わかるかな～?) 共に舞台は昭和30年代で、片や最新のCG、片やセットとはいえ徹底したリアリズムの完ぺき主義者。共に見事に活写されていて◎。そういえば、最近映画のレファレンスが随分減った気が……。 (へ)
- ◆ 当館では「ほっかいどう地域の課題解決サポート事業」として、課題解決型図書館に取り組んでいます。「地域の情報ハブとしての図書館」や「これからの図書館像」を読み返す日々ですが、本誌33号(平成19年10月発行)に収録した講演「レファレンスをめぐる状況」を読み、まだまだ努力が足りないと反省しております。「法コンシェルジュ」の開催等をバネにして、レファレンス機能を幅広く利用してもらうよう頑張っていきましょう。(Y)



***Do-Re(どうれ)* の由縁**

“どうりつとしょかんレファレンス” の
略から名付けました。
しかしながら
“どれどれレファレンス” からとの説もあります。

THE REFERENCE NEWSLETTER OF HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信 No.40(通巻44号)

発行年月日 平成22年10月6日
編集 北海道立図書館参考調査課
発行 北海道立図書館
〒069-0834 北海道江別市文京台東町41番地
TEL 011-386-8521 FAX 011-386-6906
<http://www.library.pref.hokkaido.jp>
e-mail: sancho@library.pref.hokkaido.jp
